

## 沢山の感謝

一宮中・2 伴 奏瑠

七月二十六日、私たち一中吹奏楽部は戦いました。相手は東三河の他校の子、そして自分たち。先輩方が去年勝てなかった戦いに、私たち二年生が加わった新メンバーで心を一つに再び挑戦しました。今まで顧問の先生や外部講師の先生方、時には仲間から、沢山のアドバイスを貰ってきました。

「ホルン、音をもっと小さく。」

と言う外部講師の先生。

「ハーモニーを大切にしたいからもっと吹いて良いよ。」

と言う顧問の先生。一体どちらの言葉を信じ、表現すれば良いのだろう。常にバランスのことでいっぱいの頭。ホルンで課題曲を演奏する難しさに、苦しみました。でも、私は課題曲が大好きです。いや、ホルンで演奏する課題曲が大好きです。吹いていて楽しいから。気づいたら鼻歌で歌っていて、もう聞き飽きたと言われてしまうくらいにね。だから、本番は考え過ぎず、とても楽しく課題曲を吹きました。顧問の先生の雰囲気作りも上手だったから、私たちだけコンサートを開いているみたいに楽しく、明るく吹けていたと思います。いつも通りのテンションで吹くことができ、先生のコンクール慣れは凄いなと思いました。楽しく演奏できる雰囲気を作ってくれた先生に感謝です。また、楽しく吹けたのは仲間のおかげでもありません。演奏する前客席には審査員、親、演奏し終えた他校の子、塾の先生など。目の前にいる沢山の人を見て、私はとても緊張しました。でも、今から演奏するのが楽しみと背中が笑っている仲間。頭を上に向けている仲間。笑顔で待つ仲間。こんな姿を見たら、私も楽しもうと前向きな気持ちになりました。仲間がいる安心感はこんなに

も大きいのかと知り、私にとって一中吹奏楽部が安心できる居場所になっていたことがとても嬉しかったです。仲間にも感謝です。

楽しく終えることが出来た課題曲が終わり、次は、自由曲。ストリープがあつて表現が沢山出来るから大好きな曲。でも、やりたくない曲でした。私が出来ない自分が悔しくて、不安で、皆からの期待に耐えられなくて泣いてしまったのは大会前日。私だけがメロデーの三つの部分は、どこも音が高くて、練習でも音を沢山外してしまいました。だから、一つはオーボエが代わりに吹いてくれることになりました。悔しかったです。自分で吹きたかったです。でも、これが私の実力だったから、任せました。一つ無くなった分、残り二つは自分で最後まで頑張ろうと決めた私は、自分なりに頑張りました。でも、頑張り不足だったのかな。いつまで経っても合奏中に当たらない一音。歌いながら吹けない自分。できない自分が一人ぽつんと思いました。出来ない自分が情けなく、皆に申し訳なかったです。顧問の先生、外部講師の先生方、仲間、家族。皆から

「頑張れ。」

「出来るよ。自信持って。大丈夫。」

と言われました。いつもなら、嬉しい言葉です。もっと頑張ろうと思うことができます。でも、もう限界で、

「頑張れって言わないで。もう頑張れないよ。出来ないよ。」

いらぬプライドがある私には出さなかったけど、心の中で繰り返し、繰り返し言いました。

「頑張れ。」

この言葉が私に期待をしているようで、プレッシャーをかけているようで、辛かったです。日に日に苦しくなる一方でした。自分でも自分を助けてあげられなかったです。大会前日、明日は頑張ろう。本当はこう思いたかったです。でも無理だと思う気持ちが大きく、仲間の前でも家族の前でも、溜めていた涙があふれてしまいました。そんな私に母は

「泣いても出来るようにはならないよ。」  
と言いました。

「そんなこと分かっている。でも、もう出来ないんだよ。」

「もう出来なくて良いんだよ。それがあなたのいつも通りだから。だから明日頑張る必要はない。いつも通り吹けば良いだけ。」

そっか、いつも通り吹けば良いんだ。この時、自分が自分に乘せていた出来るようになりなさいというおもりが、ふつとどこかへ飛んで行ったように楽になりました。

「でも、最後まで諦めちゃいけないよ。」

ずっと誰にも言えず、苦しかった私がたった四文の母の言葉に救われ、本番でもこの言葉を思い出して、逃げずにいつも通りに吹けました。練習でもいつも当たらなかった一音は本番でも当たらず、外してしまいました。悔しかったです。でも自分の中であの場でいつも通りに吹けたこと、これはとても大きく、自信になりました。いつもそばで見守ってくれた母に感謝です。

演奏後の結果発表。欲しい言葉はA金賞。そして、代表。いつも通り吹けたこと、これは私にとっては良かったけど、その外した一音が結果を悪くすることは大いにあり得る。そう思った私は不安で仕方がなかったです。期待と不安を持ちながら誰もが静かに待つホール。そこに聞こえるのは、ドクドクうるさい私の心臓。そして、結果をいう役員の声。順番に結果が発表されていく。あと三校。あと二校。次だ。

「豊川市立一宮中学校、A金賞。」

「キヤー！やったー！」

私たちの喜びの声がホールいっぱいに響きました。私に抱きつく仲間。嬉しくて思わず泣く仲間。嬉しさと、自分の外した一音が結果を悪くしなかったことに安心して号泣する私。金賞を取れたことを全員で喜べた一中吹奏楽部。皆同じ気持ちでいることがとても嬉しかったです。そんな私たちが静かになるのを待ってから、また役

員の人が順番に代表校を言っていきました。再びホールは静まり返りました。代表に選ばれるのは四校だけ。私たちの前までに三校しか呼ばれていない。と、いうことは確定じゃん。

「そして十四番、一宮中学校代表。」

役員の人が言い終わる前に、再び私たちは喜びました。何を貰うよりも、何を言われるよりも嬉しかったです。私はあの瞬間は一生の宝物だと思います。

東三大会で沢山の課題が見つかったので、県大会までの残り少ない時間で出来るようにしました。外した一音も当たる確率を上げました。次こそ当てるぞ。マイナスな私がいなくなった私はこんなに強いんだと知り、嬉しかったです。逃げないと決めて挑んだ八月四日の県大会。東三大会より、楽しく演奏できました。ですが、あの一音は綺麗に当たりませんでした。悔しかったけど、前回よりはできたことが嬉しかったです。県大会の結果は銀賞。他の中学校のレベルが違い過ぎて、こりやまだまだだと自分たちの成長できる可能性を新たに見つけることが出来ました。悔しい結果だったけど、県大会で演奏できたことは自信になり、他の演奏を聞いて勉強になり、そして何より楽しかったので、連れて来てくれた先生、一緒に頑張ってくれた仲間、応援してくれた家族などに感謝です。そして沢山悩んで、失敗して、でも、周りの人の力を借りながらも最後には前を向くことが出来た自分に感謝です。

大会に出て、自分のまだまだなところ、目指したいところ、感謝を伝えたいいけない人。音楽を通して沢山のことを学べたから、色々あったけど、全て良い思い出です。この経験を忘れずに、次こそ自信をもって結果を聞けるように、基礎練習から丁寧にさらさら成長していきます。また、残り少ない先輩たちとの演奏を楽しんで、沢山学び、一中吹奏楽部の音を沢山の人に届けていきたいです。